



今年も山の幸とスラブ登りを楽しみに

会越国境・御神楽岳 **前ヶ岳三本スラブ/もうかけ沢 (幻の大滝まで)**

石井

【日時】2009年5月30日～31日

【メンバー】木下 (L)、小暮、石井

昨年、一昨年この時期も、御神楽岳周辺へスラブ登りと山菜を楽しみに出かけている。家庭の事情でそう山へは出かけられないわが身にとって、このような一度で二度おいしい山行は充実するし、得るものも多くて(?)大変魅力的だ。今年雪の少なさから時期を早め、前ヶ岳のスラブ登りともうかけ沢を選んだ。

前夜は雨降る中東北道を飛ばし、白河から昨冬に完成した甲子トンネルを抜けて下郷の道の駅で仮眠、昭和村を経て霧来沢への林道に入る。懸念された天候は、下郷辺りではどんよりした空であったが、現地では雨の気配も少なく、土曜の昼過ぎまではどうにかなりそうな予報だったので、予定を入れ替えて初日に三本スラブへ向かうこととする。支度して登山道を辿り、もうかけ沢の先からナメ床の霧来沢本流に入る。二俣を右へと入り、屈曲を過ぎてしばらく進むと前方に前ヶ岳のスラブ群が結構な迫力で見えてくる。今年雪渓も小さめだったが、それでもV字スラブ出合からは全て雪渓で覆われるようになる。雪渓を上り詰め、赤いスラブの出合の滝を過ぎた次のスラブが三本スラブだ。

出合から俯瞰すると、下半分は長いインゼルとなって中間部で合流、上部はなるほど、三本のスラブに分かれている。左はやや藪が多く、真ん中は傾斜がきつそうなので、一番容易そうな右側のスラブを目指すこととする。少し右から回り込んでスラブへと乗り移り、フラットソールへ履き替えて登攀準備。念のため木下さんリードでロープを出したが、傾斜が緩く、フリクションも良く効きくので以後はノーザイルでグイグイ登っていく。中間のインゼルの合わさった部分には寛げるテラスがあり、青空も覗く空の元、他のスラブや取り付きの雪渓を眺めながら、抜群のロケーションを楽しんだ。

上部スラブは右へと入り、傾斜のきつくなつた辺りで再びロープを出す。1P目は石井リード、2P目の小暮君リードの部分が傾斜もあり、核心だったようだ。3P目は再び石井がリードしたが、後半はロープ不要といったところ。さらに右手の稜に出てひと登りで稜線直下に出て、楽しい登攀はここで終了、あとは薄い踏跡を追って登山道までヤブコギである。途中、雪の残る北斜面の近くなどにはコシアブラの木やカタクリの群生があり、飽きさせない。収穫も交えて1時間強で御神楽休憩舎の少し下辺りの登山道に出れば、あとは一目散に登山口へと戻るだけであるが、出た辺りから雨に降られた。車に戻り、登山口から大鍋又沢出合まで移動、雨の中タープを張れば、あとは宴会へと突入するのみである。焚火こそできなかったが、天麩

羅に始まり、おひたしや炒め物各種で山の味を楽しんだ。

翌朝起きると、どうにか雨が落ちていないかな、という程度の天候。幻の大滝を登るには少々不安のある天候なので、大滝を眺めに行って途中で山菜を採ろう、という心積もりで出発、今日は登山口から本流を遡行してみる。もうがけ沢に入るとしばらくは森の中の単調な流れが続くが、小雨降る中山菜を摘みながら進んでいく。やがて現れた15m滝は左から大きく巻き、続く20m滝は右の山腹を絡んで越える。さらに20m滝を左から巻くと、正面には急なルンゼ、右手本流には20m滝が懸かっている。左岸の踏跡から巻くと、小尾根上の展望台からは幻の大滝の勇姿が見られ、思わず歓声を上げる。沢に下りて左の支流のナメを登ると、前方が開けて見事な幻の大滝が見られる。湯水期にはショボク見えるらしいが、雪解け水+悪天もあったので相応の量の水を落とし、美しい。

滝の登攀は次回のお楽しみとして、今回は20m滝の下から林道へと続くらしい「歩道」を辿ることにする。この踏跡が相当な曲者で、ピンクのテープが残ってはいるものの、道形はほとんど消えかけており、頻繁に道を失う。途中、複雑な尾根と略奪点でも有りそうな沢の流れに惑わされはしたが、1時間強で800m付近の林道へと飛び出した。以前の会山行でも歩いたが、登山口までの長くて単調な林道歩きは2時間近くかかったが、ここでも山の幸をゲットできるので楽しい。帰りは旧来の湯治場である源泉掛け流しの湯倉温泉に入ってから帰京した。

【行程】5/30 林道登山口 (8:40) ~三本スラブ取付 (10:40) ~稜線 (13:20/30) ~登山道 (14:30) ~登山口 (16:15)

5/31 登山口 (7:20) ~もうがけ沢出合 (8:00) ~幻の大滝 (10:45/55) ~本名津川林道800m (12:15) ~林道登山口 (14:00)

【地形図】1:25000 御神楽岳、貉ヶ森山



三本スラブ全景



山の幸がいっぱい



幻の大滝